



ミツバチの子どもは何を食べるの

最初の3日間は、ローヤルゼリー入りはちみつ

ミツバチの巣は、1匹きの女王バチを中心に、次々と生まれてくる、たくさんのはたらきバチが、決まった役目を受けもってはたらく、一つの会社のようなものです。

ミツバチの卵は、産卵後3日で、白いうじ虫の幼虫が生まれてきます。すると、最初の3日間だけ、はたらきバチの体から出るローヤルゼリーと、はちみつを混ぜた「はち乳」をあたえられます。その後、3日間は、花粉とはちみつを混ぜたものがあたえられます。これで食事はおしまいです。でも、この間に、幼虫は4回だっ皮して、生まれたときの体重の1500倍にもなっています。この後、幼虫はさなぎになり、およそ2週間で成虫のはたらきバチが出てきます。

女王バチはローヤルゼリーだけで育つ

女王バチになるハチは、育てられるへや(王台)が決まっていて、そこに産卵された卵は、次の女王バチになります。女王バチになる幼虫は、ローヤルゼリーだけ食べさせられて育ちます。はたらきバチとは、幼虫のときからちがっています。

おとなになると、体からローヤルゼリーを出す

はたらきバチは、成虫になって3日間くらいは、花粉をよく食べ、巣のそうじをしてすごします。その後1週間くらいは、体からローヤルゼリーがよく出て、幼虫の世話係をやります。成虫になって20日目くらいまでは、巣の中で、巣作り、みつの水分をとばして貯蔵するなどの仕事をします。その後、外に出て、みつや花粉集めを始めます。はたらきバチのじゅ命は40日くらいですが、このように、一生の仕事の役目が、ほぼ決まっています。

みつを集めるはたらきバチは、みつをちょっぴり食べています。(監修・中山 周平)

